

スクラム

2024年10月号
第234号

編集・発行
「スクラム」編集部

〒732-0057 広島市東区二葉の里 1-3-16 スクラムユニオン・ひろしま

TEL/FAX 082-264-2310 scrum_u34@ybb.ne.jp 郵便振替 01310-1-65053

銀行振り込み先 もみじ銀行 三篠支店 普通 口座番号 1820186

第36回コミュニティ・ユニオン 全国交流集会



本集会は、「ユニオンでつながりひろがる仲間の知恵と輪と力」をスローガンに、エルおおさかにおいて10月5日～6日の2日間にわたり420名の参加者を得て盛大に開催された。スクラムユニオンひろしまからも三役と出雲のブラジル人組合員など計9名が参加した。中・四国地区からはユニオンおかやまの2名、次回開催地えひめユニオンの3名が参加した。

総会では、2024年度の活動方針が提起された他、提出された議案はすべて採択された。

その後、東京管理職ユニオンからあんしん財団争議と札幌地域労組からパタゴニア争議の報告があり、韓国非正規ネットからの特別報告があった。参加者は、闘う仲間の報告を聞いて、労働者として連帯の絆を深めた。

続いて、映画「もっと真ん中で」の上映が行われた。これは在日韓国女性が起こした在特会やレイシストによるヘイトスピーチに対する損害賠償訴訟を追ったドキュメンタリー映画で、民族差別と女性差別の複合差別の認定という画期的な勝利判決を最高裁で勝ち取った経緯が描かれていた。上映のあと、監督と主人公の在日韓国女性によるトークがあった。監督からは映画作成のきっかけ、主人公からは裁判原告となった経緯、そして「もっと真ん中で」というタイトルとした理由など数々のエピソードが紹介され、会場の労働者の心を強く打った。

その後会場を移して歓迎レセプションが開かれた。各ユニオンの紹介があり、全国のユニオンの仲間たちと楽しい時間を過ごし、交流を深めた。

翌日は、12の分科会が開催され、当ユニオン参加者は3つの分科会にわかれた。「外国人問題の取り組み」分科会は土屋書記長が担当者となり、出雲から参加したブラジル人組合員はこの分科会で賃金闘争などについて報告した。

分科会終了後に全体集約が行われた。その後に韓国民主労総訪日団の仲間が登壇し、代表が特別アピールを行った。彼女は、どんな小さなことも労働者の闘いなくして勝ち取れない、ここに参加している闘う仲間達が「チェイル モシッタ」（一番カッコいい）、そして韓国の労働者は尹錫悦政権を打ち倒す、日本の労働者も石破政権を打ち倒せ、「ノドンチャ ヌンハナダ」（労働者は一つだ）と労働者の団結のすばらしさを力強く訴え、参加者に勇気と自信を与えた。

続いて集会宣言を全体で確認・採択した。そして次回開催県の愛媛の仲間たちが来年の四国での集会成功に向けた力強い決意を表明した。最後に寺山運営委員代表が今集会の意義を確認する挨拶を行い、「おおさか集会」は大盛況のうちに閉会した。

第11分科会 関西弾圧事件は、今どうなっているのか に参加して

竹本 淳一

連帯労組近畿地本書記長の西山直洋さん、立命館大学名誉教授 吉田美喜夫さんを講師に迎え、分科会が開催された。

関生は、1965年に全日本建設運輸連帯労組関西地区生コン支部として設立された。ミキサー運転手が個人で加盟できる産業別労働組合である。

今の日本は、企業内組合がほとんどの割合を占める中、関生支部は企業の枠を超え、ゼネコン、セメントメーカーとの対等取引条件を実現するために、生コン業界のほとんどを占める中小企業の経営の安定、

生コンの適正価格の設定、生コン産業で働く中小企業全体の労働者の労働条件、雇用安定を集団交渉して、統一要求、統一交渉、統一妥結し、企業の枠を超え、集团的労使関係、労働協約締結をめざす数少ない組合だ。また、関生は、解雇された生コンの中小企業の労働者の再就職先の世話をしている。

しかしながら、大阪広域協同組合（関西の生コンの中小企業の大半の経営者が、組合員である）と、セメントメーカーが裏に隠れて組み、大規模な関生潰しが計画された。2018年以降、関生に対して警察の強制捜査が入り、次々と関生の組合員を威力業務妨害や恐喝未遂で逮捕し、逮捕者は延べ89人にのぼる。逮捕者には異例の長期拘留を強要し、警察や検察の取り調べでは逮捕事由ではなく、保釈と引き換えに組合脱退を迫られ、検察は逮捕者の家族にも、保釈を理由に組合脱退を説得するよう指示してきた。

その他にも、大阪広域協同組合は、関生支部をつぶすためにさまざまな策を弄している。

労働組合の正当な活動を、SNSを利用し攻撃、ユーチューブによる巧みな映像編集と配信攻撃、デマ宣伝、組合事務所襲撃、労使関係の安定した企業への攻撃、・関生の連帯企業への経済封鎖（出荷停止、材料供給不可、契約打ち切りなど）、組合員への露骨な解雇攻撃、ストライキを威力業務妨害と非難。

大阪広域協同組合のこれらの動きは、明らかに露骨な組合潰しであり、警察と検察の動きは、国家権力による労働運動への介入に他ならない。また、マスメディアの報道規制も未だに敷かれている。

戦前から産業別労働組合が弾圧され、解体され続けた歴史の中で、企業内組合が主流となり、30年間賃金は一向に上がらず、非正規雇用や低賃金労働者が増加し続けている結果を招いているのだ。

また、今現在、政府は関生の弾圧だけでなく、全国の組合に対して労働基準関係法制研究所をひらき、労働基準法の改悪を進めており、日本全国の組合活動さえ規制し、組合潰しをしようとしている。いまこそ、日本の全組合が団結し、再度、産別運動を基本とした労働運動を活発化させ、労働基本権を死守しなければならない。さらには、労働組合を認めない国家権力の攻撃に対して、沖縄新基地建設反対運動、反原発運動、排外主義反対運動、反差別運動、市民運動と連帯しながら、全組合が、団結して闘争しなければならない。



闘争短信

出雲統一コミッティ 来春闘に向けての要求書提出



9月17日、統一コミッティのメンバーがそろってフジアルテとアバンセの両社に赴き、来春闘に向けての要求書を手渡した。来春闘に向けての要求というと気が早いのかのように聞こえるかもしれない。しかし、フジアルテとアバンセは出雲M社の請負企業として例年10月をメドにM社との請負契約について打合せを行うようになっている。すると、この前に来春闘の要求を示しておき、両社が要求に応えられる請負契約を交わせるようにしておかなければならない。

それが、この要求行動であった。

統一コミッティは、事前の検討の結果、来春闘も時給100円のアップ、生産奨励金を現行の3万円から4万円に上げるよう要求することとした。根拠としては、今年度の賃上げ率が5.1%だったことから、最低それを上回る要求としてまとめあげたものである。5.1%で単純計算すれば77円になるところだが、中途半端な要求額ではなく100円の賃上げをめざそうということになった。生産奨励金については、福井M社がすでに1万円アップを実現しており、同様の要求をしたいということで決定した。

当日、統一コミッティのメンバーたちと本部執行委員とでフジアルテ事務所に行き、担当幹部に要求書

を手渡した。続いて、アバンセ事務所に行き、同様に要求書を手渡した。両社とも要求書内容についてよく検討することを約束した。



江田島自動車学校で分会を結成！

江田島自動車学校で、スクラムユニオンの分会が結成された。今回、二人の分会員から自分たちの気持ちを率直に語ってもらったので紹介したい。

鈴木久光組合員

私がスクラムユニオン・ひろしまに入会した理由は、自分勝手にパワハラや法令違反とも取れるような行為を平気で繰り返す社長から自分自身を守ると共に、会社を明るく風通しの良い働きやすい職場にしたいと思ったからです。

そのきっかけは、例えそれが事実で正しいことであっても、社長にとって不都合で気に入らないことは暴力に訴えてでも阻止したり、事実無根の事で職員を懲戒処分にし、弁護士が入った途端、処分を撤回し、自分の悪事がバレるのを恐れて「200万円出すので辞めてくれ」等と言い出したり、入社時に社長が「資格を取得したら正社員にし、基本給を一万円増額する」などと言っておきながら、取得後になると「増額したのは今まで2人しかいない。今は年度末なので上げられない。4月、5月まで待ってくれ」と言いだし、さらにその時期が来ても一向に上げようとしなない等々のひどい対応があったからです。

このような思い付きで物を言うような嘘つきで悪質な社長は、ワンマンな世襲3代目です。管理者も以前、私に「社長は、ワンマンで今までも職員とトラブルを起こし、俺が胸ぐらを掴んでやったことがある、何かあったら言って来い！」とっていました。

さらに長年ここに勤めるベテラン職員も「社長があんなだから何人もここを辞めていった職員がいる」とっていました。

懲戒処分を撤回してくれた弁護士の先生から「このようなワンマンな社長はまた繰り返す可能性があるので、労働組合に入った方が良い」と勧められて入会を決意しました。土屋委員長は、私の話を親身になって聴いて頂き、さらに会社を良くし、なんと言っても労働者である私を守ってくれようと懸命に動いてくれています。来月には、団体交渉をしてくれますので、心強く大変にありがたいと思います。

那須一郎組合員

私が、スクラムユニオン・ひろしまに入会した理由は、なんと言っても社長のワンマンぶりにあきれ果て、怒りがこみ上げてきたからです。罪のない同僚を自分が気に入らないという理由としか考えられないことで処分するなど、「これはおかしい」と苦情を言われると「お前の話は聞かない！誰か間に入れろ」と恫喝し、仕方なくその職員が弁護士を入れると、堂々と話し合うのかと思いきや直ぐに処分を取り下げて、他の職員に分からないようにもみ消そうと工作しました。

それだけではなく、重い処分で何の罪も無い職員を処分しておきながら、「すいません」の謝罪の言葉一つもない！こんな社長ですが、今までは組合がなかったため何も言えなかった。しかし、今回、鈴木さんが組合に加入すると聞いたので、私も加入に賛成だし、自分も入ろうと思い入会しました。

これからは、組合員として、会社を良くするために「正しい事は正しい。間違っていることは間違っ

いる」とハッキリと意見し、また、今まで以上に一生懸命働き、会社に貢献していきたいと思います。

優輝福祉会で組合結成！

熊原 武博

スクラムユニオン・ひろしまに単組加盟！

優輝福祉会労働組合（ゆうしゃいんプラス）は、広島県三次市庄原市に事業所を持つ社会福祉法人の労働組合です。発足は 2024 年 7 月。山下委員長と私が最初期のメンバーでした。正規職員、非正規や臨時職員や雇用契約のある就労継続 A 型の社員（一般的には利用者ですが、私たちの職場では「社員さん」と呼びます）など約 400 名で、県北では知られた社会福祉法人だと思います。

私は東京から移住して働き 6 年目になります。現在「経営方針の転換」によるハラスメントを経験し、休職 4 か月目です。「経営方針の転換」と表現しましたが、法人理事からは特に明示的な説明もなく、「ボーナスを支給しない」などと一方的に通知がされ、それに対して指摘すると「やっぱり払う」とはなりましたが、コンプライアンス無視、就労規則にもないようなアンフェアないじめをしてきました。

今回、組合を立ち上げて 9 月末に一回目の団体交渉をした経験で言うと、対外的には HP など法人のイメージを作り上げてはいますが、中身は悪い意味で「昭和の中小企業」（と言ったら、昭和の中小企業に申し訳ない。想像上の産物です）なのか、封建的な体質というか、まだはっきり命名できていません。

入職して数週間経過のある日、確認したいことがあるので「就業規則を見せてください」と管理者に伝えましたが、見せてもらえなかったり、隠されたりすることがあり、不審に思っていました。お昼の一時間の休憩は、利用者の食事準備やお悩み相談などで半分以上は業務だったのでそのことを伝えて改善をお願いしても、知らないふりをするなどうやむやが続きました。

そのあとも、おかしいことが続きました。そのたびに指摘して改善をお願いしましたが、「ごまかし」「まやかし」「はぐらかし」を巧みに使いまわされ徒労でした。

一年目の 12 月のある日、管理者に呼び出され、「最近どう？」のような雑談 10 分程度が後になって人事考課面談だったと分かり、脱力しました。年度ごとの目標面接で上位者と目線合わせして、職務の達成度やそもそも職務の範囲を明確に、できるだけ数値で設定し、途中経過を時々面談、最終的に年度の振り返り面談があり評価が決定する、というのが私の中でスタンダードな人事考課制度でした。

今回団体交渉のなかで森重理事長は「現行の人事考課制度は機能していない」「新しい人事考課制度の説明に回る」と言いましたが、古いものを新しくする、という発想では新しい制度も機能しないと考えます。古い制度が、どのように機能したか、結果的に公平中立透明性が確保できなかった理由の検証と公表が先にあるべきで、その正しく機能しなかった人事考課制度でプラスにしてもマイナスにしても不公平な扱い（望外の処遇も）を受けた人の是正と救済措置がないと、正しく機能する人事考課制度はもちろん、本当によい職場にはならない、と感じています。

現在、世界はいろいろな革新的な技術や思考や精神性で世のため人のために活躍する企業がある一方で、広島県北の片田舎にある当社会福祉法人は前時代的な発想で運営をしております。職員の本来発揮できる能力の邪魔をしたり、いやがらせで嫌な思いをさせても知らないふりをしたりしています。こんな経営は続けていけないことを、職員組合員で団結して伝えていこうと思います。

保育士 M さんの不当解雇に物申す

ビラ配布による反響

M さんの解雇問題に対する抗議も含めて、観音本町保育園周辺でのビラまきを行った。今回のビラまきでは周辺住民から多くの反応があった。500枚のビラまきでこんなに反響があったのもめずらしい。ここにいくつか紹介しておこう。

1) 当日、ビラまきをしていると A さんから声掛けあり、「あと 5~6 枚ください。知人に渡します」「一緒に門前行動もしてあげます」と言われた。

2) 昔は少し離れたところに保育園があった。園を株式会社にして今のところに建て変えた。その時、元園長はあいさつにも来なかった。元園長は近くを通ってもあいさつもしない。また、園内で焼き芋をして煙が出て消防車が来る騒ぎになったが、それでも焼くのを止めなかった。そんな騒ぎになったのに近所に断りも言わなかった。

元園長と今は退職した保育士は園児を殴る、蹴るなどしていた。

去年、辞めたいのに必要な人員が満たせなくなるという理由で辞めさせてもらえない保育士がいた。親族を病気にしてそれを理由にしてようやく辞めることができたと言った。

園に子供を通わせている親にビラを渡した。もう少しビラが欲しい、配ってあげるよ。

3) 9月17日、組合事務所に電話あり、連絡してくださいとのことだった。翌18日に電話して、会って話を聞くことができた。

何十年も前から住んでいる。元園長は D ビルに住んでいる。裏に駐車場があり、オレンジ色の車を止めている。この車がすごいスピードで道を走る。危ないので止めてほしい。

2~3年前にも辞めた先生がいる。ビラはもう少し広く撒いたほうがいい。私にも 5~6 枚くださいとのことだった。後日、知人にビラを見せたところ「広島市に通告したい」という人もいるとのことだった。

4) 9月17日、事務所に T と名乗る人からメールがあった。

「昨日、チラシが郵便受け入っていました。観音本町保育園が、保育士 M さんを解雇した経緯が書いてあります。被害者の M さんを解雇に追い込んだ園長に非難の声を上げてくださると結ばれています。スクラムユニオン・ひろしまの住所と電話番号が書かれています。ネットで調べたところ、団体交渉や弁護士の紹介をされているようですが、こんな個人情報を書いたチラシをスクラムユニオン・ひろしまが配布されたのでしょうか？メールでお返事お願いします。」

5) 事務所に非通知で電話あった。非通知で名前も名乗らず、「労働相談ではないのですが、ビラが配られていたのですが、どういうことでしょうか」と質問があった。

「観音本町保育園で保育士が不当に解雇された事実経過を知ってもらいたい。解雇された保育士さんを支援してほしいという趣旨です」と答えたら「わかりました」と切れた。

恫喝には屈しない

今回のビラまきには大きな反響があっただけではない。団交に出てきた代理人弁護士から次のような脅しとも言えるメールが届いた。

われわれが虚偽の内容をビラに記載したとして、「こうした行為は明白な違法行為であり、刑事上及び民事上の責任を負うもの」「現在方針としては刑事告訴や民事訴訟等の法的手続きを講ずるか否か検討している」「繰り返し同様の行為はされないよう十分ご留意下さい。同様の行為を繰り返された場合、そのことも含めて刑事告訴及び民事訴訟提起を検討いたします。」要するにビラまきをするな。観音本町保育園のやったことは暴露するなという恫喝である。正当な組合活動としてのビラまき情宣をするな。もし、すれば刑事告訴、民事訴訟をするぞということである。言葉は丁寧だが、中身は脅しである。われわれも見くびられたものだ。言うておくが、われわれは恫喝には屈しない。売られた喧嘩は買う。これがスクラムユニオンの精神であり、魂である。こうした恫喝を行った観音本町保育園酒井園長と代理人たちには、必ず責任を取らせ、自分のしたことに向き合うまで断固闘う。

スクラムユニオン・ひろしまの活動報告と予定

9月の報告 (一部抜粋)	10月の予定 (一部抜粋)
1日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会	5/6日 CUNN全国大会 in 大阪
2日 なみしま団交、シムラ団交、GL分会、楊団交	9日 フジアルテ事務折衝
3/4日 出雲労働相談	11/12日 メンタルヘルスホットライン、
5日 アバンセ団交、一栄工業団交	13日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会、最賃街直
7日 GL分会	14日 観音本町びらまき
8日 患者と家族の会広島支部	19日 安野集会「和解を導いた力」part4
10/11日 出雲労働相談、アバンセ事務折衝	20日 安野貞卓の集い
12日 江田島分会、ふれあい学習会	23日 コムテック地裁判決
15日 中国帰国者の会(中秋節)	24日 ふれあい学習会
18日 出雲労働相談、最賃街直、ユニオンネット	26/27日 中四国ネット大会(四国)
19日 なみしま団交、戦争法反対街直	28日 NPO事務局会議
24/25日 出雲労働相談、フジアルテ事務折衝	29日 優輝福祉会団交
26日 江田島自動車学校団交、アスベストユニオン	30日 アバンセ・フジアルテ事務折衝
30日 優輝福祉会団交 他	11月3日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会 他